



雪景色の清水谷家の棟

冬

御苑における大学の歴史教育

高木 博志



絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの環。これが息の長い活動のシンボルマークに表現されています。

発行人
〒602-0881 京都市上京区
京都御苑3番地
☎075-211-6364
財団法人 国民公園協会
京都御苑 加藤博之

編集
株式会社 白川書院

監修
環境省京都御苑管理事務所

本紙は再生紙を使用しています。

私は一八六九年（明治二）の東京遷都後の京都や奈良の問題について研究している。過去の歴史や「伝統」を表す場として、古都が近代日本のなかに位置づく意味を、歴史学から考えている。

京都のいくつかの大学の授業で学生と、東山の花街から六波羅の葬送の場、秀吉の遺跡などの巡見や嵯峨野と古典文学を近代から考える巡見とともに、京都御苑にもよくやってくる。京都御苑における課題は、東京遷都前の江戸時代の公家屋敷や朝廷のありようを、残された痕跡から、想像することだ。

いつも出発は閑院宮邸跡の環境省の展示施設からはじまり、京都御苑の全貌を説明する。閑院宮邸跡には、一八八三年に設置された宮内省京都支庁があったこともあり、貴重な江戸時代の面影を今に伝えている。京都御苑内における大規模な江戸時代の遺構は、禁裏御所・仙洞御所をのぞいては、拾翠亭の茶室が残る九条邸跡と築地塀が残っている桂宮邸跡と、この閑院宮邸跡のみである。江戸時代は、禁裏・仙洞御

所・撰家・宮家の高い家格の屋敷と、九門から禁裏に向かう道筋の両側にしか、土塀に瓦を葺いたしつかりした築地塀はなかったことしたが、ついで烏丸・丸太町・今出川など外郭の通りにも石垣（現在のものは一八七八〜八〇年に造られた）や築地塀はなく、公家町は京都の町続きのイメージであったことを説明する。そして江戸時代の京都の町人や旅人は自由に九門内に入るこ



拾遺都名所図会 公卿門参内の図 京都市歴史資料館蔵



閑院宮邸跡

のみなならず禁裏御所内にもお金を払えば即位



拾遺都名所図会 正月の禁裏御所南西角の賑わい 京都市歴史資料館蔵

式や、節分・灯笼などの年中行事も見物できた。かつての開かれた朝廷や九門内の公家町のありようを想像してもらおう。

閑院宮邸跡をあとにして、九条邸跡では、明治前期の博覧会で料理屋や茶店が賑わった海女の潜水ショーが行われたことを、高倉橋の上で話す。御苑を南北に走る建礼門前の

御所に着き南側の建礼門から南西の公卿門（宜秋門）に至り、そこで公家の参内をみた



鍋焼きうどん



「猿ヶ辻」グッズ

皇室カレンダー（卓上）

（壁掛）

大通りは明治時代にできたもので、大札や葵祭で行列がゆく、もつとも重要なペイジエンの場であった。九条邸跡の厳島神社、花山院邸跡の宗像神社、そして、もう少し北に行つた西園寺邸跡の白雲神社からは、江戸時代の京都の町の人々にも開かれた信仰があったことがうかがえる。琵琶の屋敷内の神社である白雲神社には、妙音弁財天が祀られるが、寛政期から京都の町人の「巳の日講」があったことが残された灯籠からわかる。江戸時代には、公家屋敷も禁裏御所同様にかかれた空間だったのだ。さらに政治力のある宮であつた朝彦親王邸跡の胎範碑をみながら北上し、一八六四年の禁門の変で来島又兵衛が自

決した棟の木が清水谷家の場所にあつたことを確認する。江戸時代、京都の観光スポットであつた公卿門前の檜垣茶屋では酒や肴を売り、腰掛け椅子にすわつた人々は一杯飲みながら公家参内をみていた。

春には公卿門前から北をのぞめば、菊亭家の御車返しの桜や、近衛邸の枝垂れ桜が、築地塀から薄桃色の滝のよう

そうしたおらかな禁裏や公家町と人々との交歓の風景を、学生と共に思い起こすことにより、王権のありようは前近代と近現代とは大きく変容することを、考えている。

（京都大学人文科学研究所准教授）

中島 文代

●新発売京都御苑限定オリジナル商品
京都御所の土塀の北東の角のパワースポット「猿ヶ辻」、その「猿ヶ辻」にまつわるお話をゆるキャラタイプでイラスト化。

●紙袋（マチ部分に英語・日本語入り）
●A4サイズ クリアケース
●絵はがき 単品
以上三種類 発売しています。

そのほか、皇室カレンダー、壁掛、卓上共好評販売中。
（財団法人公園協会京都御苑業務第二課課長）

催事案内

■平成24年京都御苑自然教室

一般の方を対象とした自然教室の今後の予定は、下記のとおりです。都市の中で貴重な緑をもつ御苑で、冬の自然を観察しましょう。

冬の自然教室“冬の御苑にふれよう”

平成24年1月14日(土) 9:30~12:00

主催 環境省京都御苑管理事務所 TEL.075(211)6348
勸国民公園協会 京都御苑 TEL.075(211)6364

講師 京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。
内容 冬の御苑にはどんな草花やキノコがあり、どんな虫や鳥たちが生活しているか観察します。

集合場所 京都御苑 閑院宮邸跡前(京都御苑南西角 間之町口)

受付時間 当日 9:00~9:20

参加費 無料

その他 筆記用具をご持参下さい。手持ちのルーペ、双眼鏡、図鑑などの観察用具があると便利です。

*以降も春、夏、秋と四季折々、自然教室を予定しています



御苑の花暦

和名	開花期	主に見られる場所
サザンカ	11月~2月	乾御門から今出川御門に抜ける散策道周辺
ウメ	2月中旬~3月中旬	梅林
ヤブツバキ	2月~4月	近衛池周辺、母と子の森白雲神社周辺

会員募集

- 会員の種類** (会費の会計年度は1月から12月まで)
 - ①賛助会員(法人) 年会費 10,000円以上
 - ②普通会員(個人) 年会費 1,000円以上
- 会員への特典**
 - ①葵祭、時代祭の招待券を進呈します。(ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)
 - ②本会発行物をそのつど送付します。
- 申し込み、問い合わせ先**
勸国民公園協会 京都御苑
住所 京都市上京区京都御苑3
〒602-0881 TEL.075(211)6364

厳冬を乗り切るために地球温暖化といっても、冬は冬。節電の叫ばれる昨今、この冬の厳しい寒さをどのように乗り越えようか? エアコンやファンヒーター、床暖房: 私たちはいつしかこの快適な生活を当たり前に思うようになりました。

一方、厳しい寒さの中で、御苑の植物は暖房もつけずにひっそりと暮らしています。石油がなくなったり、停電が続いたりしたときの冬の暮らしを思い浮かべながら、そつと観察してみましょう。その

うすれば、植物の冬の暮らしが見えてきます。ハクモクレンの冬芽は毛皮のコート。中立的御門を入って南の所にハクモクレンがあります。春に純白の大きな花を咲かせますが、冬はどうしてこのように太い梢に毛皮の芽は花芽で、中に小さな花弁や雄しべ

と雌しべが入っています。小さく薄い毛皮の芽は葉芽で、葉が入っています。どちらを大切にしているのか、すぐにわかりますね。冬芽は十二単。御苑には多くの冬芽の仲間(カシ・ナグリ)が暮らしています。これらは冬芽を枝の先端に集中してつけますが、どれも光沢のある褐色の鱗片葉(鱗片の葉)に覆われています。この鱗片葉は十二単衣のように重なって、まさに重ね着の達人です。規則正しく五列に並んでいるので、先端から見ると五角形に見えます。欲張りなサクラの冬芽

京都御苑にはヤマザクラやさまざまなサトザクラが植えられています。春、満開のときには多くの人々がうっとり眺めています。冬枯れの時期、足を止める人はほとんどいませんが、梢を手に取り、観察してみましよう。花を咲かせる枝は、あまり伸びず、枝先に四五個の冬芽が集まってついています。多くの鱗片葉に包まれた冬芽をよく見ると、中央の芽はスリムで、周囲の芽は少し丸みを帯びているのがわかります。周囲の芽には春に開く花が既に三〜五個も用意されているのです。中央の芽は葉を開き、枝を伸ばします。

アジサイの冬芽はこれまでの芽と少し違って、普通の葉が小さくなって覆っています。葉がむき出しになっているこのような芽を裸芽といいますが、寒さにじつと耐えているだけでしょうか? 冬の御苑では、サザンカやロウバイなどの前で花を愛でる人もあっても、これらの冬芽をじっくりと眺めている方は多く見られません。自然学習会でも、梢を手にとりて見てください。どうなっていますか?と質問して、目を向ける人がほとんどです。しばらくすると「よく出来てるわね!」と

環境省では多くの方々に自然とふれあいたいものや生物多様性への理解を深めていただくきっかけづくりとしてスタンプラリーを開催しています。昨年からの開催は「全国自然いきものめぐりスタンプラリー」は、全国の国立公園等にある百箇所の

スタンプラリーの景品として、京都御苑でも閑院宮邸跡収納展示室を見学するとスタンプを押すことができます。また、自然教室やトンボ

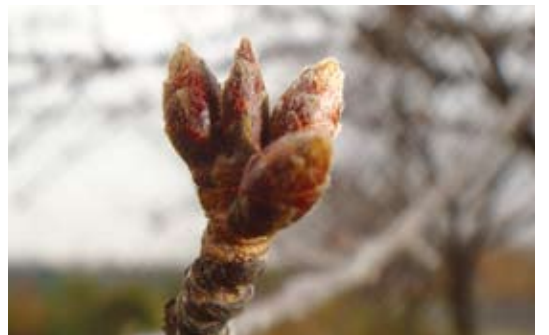
池一般公開に参加するとシールがもらえます。集めた個数に応じ、景品をプレゼントしています。平成二十五年三月末(予定)まで開催していますので、全国の多様な自然に触れながらスタンプを集めてみてください。各施設工夫を凝らした展示やイベントを用意してお待ちしています。スタンプラリーの詳細につきましては、閑院宮邸跡に置いてあるチラシまたは全国自然いきものめぐりスタンプラリー公式HP (<http://www.kimono-meguri.go.jp/>)をご覧ください。



ハクモクレンの花芽(大) 葉芽(小)



五角形のアラカシの冬芽



サクラ花芽(周囲)と葉芽(中央)



粘液に覆われたトチノキの冬芽

植物のエコな冬の暮らし方
— 御苑の樹木のさまざまな冬芽たち —
片山 雅男

感嘆の声が聞かれます。目立たないため、気付かずに通り過ぎてしまうものだからこそ、観察してはじめて感動していただけるのでしょう。あなたの身近にある木々も、いつか気づいていただける日をきつと待ちわびています。(京都自然観察学習会)



アジサイの裸芽



京都御苑で
もらえるスタンプと
シール(各施設オリジナルデザイン)



スタンプラリー景品



ポスター(休憩所に掲示してあります)

全国自然いきものめぐり
スタンプラリー開催のお知らせ
京都御苑管理事務所